

聞こえない・聞こえにくい子どもの早期支援体制に関する緊急声明

令和元年6月20日

特定非営利活動法人ろう教育を考える全国協議会

私たちは、聞こえない・聞こえにくい子どもの新生児聴覚スクリーニングや出生後から早期の療育・教育のための体制について関心が寄せられ、より良い方向を目指した議論が重ねられていることについて、大変ありがたく、また喜ばしいことだと考えています。

しかし、この議論が一つの限られた方向に向いてしまわないかと危惧しています。今回の議論や取り組みが真に子どもたちや社会のためになるよう願ってやみません。

具体的には、手話言語が排除されてしまうことへの懸念です。手話言語の獲得と聴覚活用による日本語の獲得は、本来競合するものではなく、両立していくものです。このことについては、世界ろう連盟（WFD）の見解（註1）を妥当だと考えます。両方を目指すメリットや、選択の自由や権利（註2）という観点からもどちらか一方の選択肢しかないような状況は作ってはならないと考えます。（註3）実践面でも手話言語と日本語獲得の道筋の成果が実際に示されています。（註4）

ろう者はもとより、人工内耳装用者も含む難聴者にとっても、手話言語は、生き生きとしたコミュニケーション、豊かな人生のために非常に大切なものであることは、多くの当事者が感じていることです。（註5）また、数多くの自治体が制定している手話言語条例は当事者の願いと共生の理念の実現を目指しています。聞こえない人・聞こえにくい人など多様な人たちが自分らしく生き、社会に貢献しつつ繋がり、共に生きる社会を作るために、手話言語と聴覚活用、日本語の獲得を促進できる総合的な療育、教育体制の構築を強く求めます。

註1 「ろう児の言語権に関する WFD の方針説明書」（全日本ろうあ連盟試訳）

註2 「障害者の権利に関する条約」

註3 「小児人工内耳適応基準（2014）」 日本耳鼻咽喉科学会（前略・・・また、人工内耳が音声コミュニケーションを用いる場合の選択である以上、手話などの音声を用いないコミュニケーションの選択についても可能な限りの情報提供が行われるべきである。）

註4 「子どもとママと担当者との3年5か月の軌跡」 ろう教育を考える全国協議会

註5 「全日本ろうあ連盟の人工内耳に対する見解」

特定非営利活動法人ろう教育を考える全国協議会

(構成団体)

一般財団法人全日本ろうあ連盟

ろう・難聴教育研究会

全国聴覚障害教職員協議会

全日本ろう学生懇談会

一般社団法人全国手話通訳問題研究会

聴覚障害教育を考える北海道連絡協議会

みやぎのろう教育を考える会

埼玉の聴覚障害教育を考える会

東京都のろう教育を考える会

社会福祉法人富山県聴覚障害者福祉協会

愛知のろう教育を考える会

近畿ろう連盟

一般社団法人京都府聴覚障害者協会

公益社団法人大阪聴力障害者協会

一般社団法人奈良県聴覚障害者協会

和歌山聴覚障害教育を語る会

公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

福岡県聴覚障害教育を考える会

熊本県聴覚障害教育を考える会

宮崎県聴覚障害教育の充実をめざす連絡協議会

一般社団法人鹿児島県聴覚障害者協会

ろう学校数学教育研究会

ひとつ星・さかど